



2023 年度 活動報告書

自治医科大学 医師・研究者キャリア支援センター

Activity Report 2023
Jichi Medical University
Center for Physician and Researcher
Career Support

Contents

■ はじめに		2
■ キャリア支援センターの体制	組織図 スタッフ紹介	3
■ 2023 年度活動状況	就業継続・復職支援 働き方を考えるセミナー Jichi Joy Café 育児短時間勤務制度 就業継続相談、マタニティ白衣のレンタル	4
	次世代育成支援 全国ダイバーシティネットワークへの参画	10
	育児支援 保育活動件数、職種別利用項目別件数 ベビーシッター派遣事業割引券の発行	11
	地域医療従事医師支援 卒後ワークライフバランスについて考える会 (自治医科大学 地域医療推進課女性医師支援主催)	13
■ アンケート 調査の実施		14
■ 印刷物		15
■ 発表・講演・報道		15
■ 統計データ		16

はじめに

医師・研究者キャリア支援センター長 挨拶

石川 由紀子 地域医療学センター准教授



自治医科大学医師・研究者キャリア支援センターは、2007年に女性医師支援センターとして設立され、2012年からは支援の対象を男女の医師・研究者に拡大し、現在に至るまで活動を続けております。今年度、当センターは2つの大きな変革に直面しております。一つは、2024年度から開始された医師の働き方改革、もう一つは、子ども・子育て支援交付金を活用した病児保育事業の受託です。

2023年度のイベント・企画は「働き方改革へ向けての職場づくり」をテーマに活動しました。「働き方を考えるセミナー」では、佐藤 文彦先生をお迎えし、職員のコーチングや地域と連携した診療改革について教えて頂きました。また、「第17回 Jichi Joy Café」では、乳腺科の櫻木雅子先生に、育児中の医師が多い職場における課題、そしてアイデアを共有頂きました。男女問わず様々な年代にご参加頂き厚く御礼申し上げます。

保育ルーム「あいりす」では、病児保育、一時保育、夜間保育を行っていますが、このうち病児保育は委託事業の開始により下野市民および市の在勤者の皆様にも利用して頂くことができるようになりました。病児保育は利用率に変動があり採算の合わない事業ではありますが、持続可能な運営を目指しています。利用料も1時間150円と大幅に軽減されました。育児世代のキャリア支援として、職種を問わず多くの利用を呼びかけていきます。

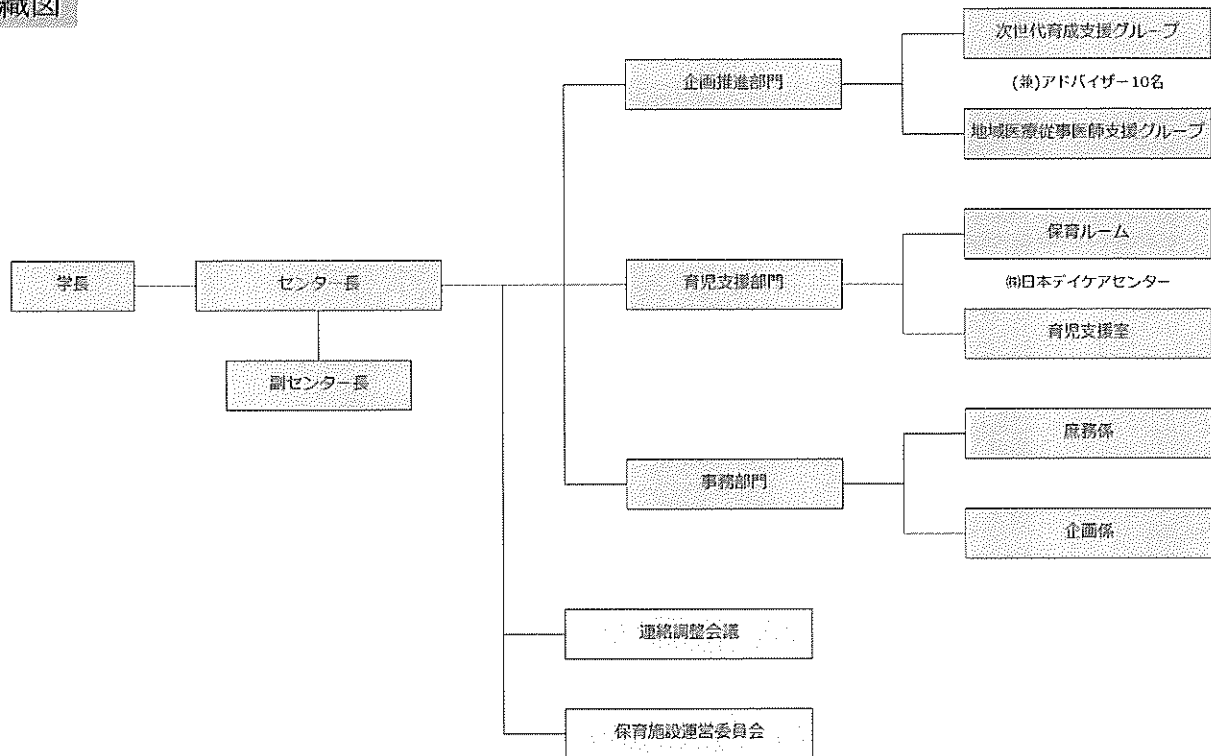
2023年には「イクメンアンケート」を実施しました。アンケートは本音を引き出す構造としたところ、多くの書き込みを頂きました。男性が当然のように育児に参加できる環境のもと、イクメンという言葉がなくなればよいという興味深い意見を頂きました。従って「多様な働き方が相互に支え合うことができる環境づくり」が重要であると結論付けました。

2024年度厚生労働省の「子育て世代の医療職支援事業」助成金が採択されました。「医療職のキャリア促進と医療機関の働き方改革を推進する病児保育のDX活用」プロジェクトを実施します。病児保育利用者の利用促進のみならず、負担軽減を目指して、予約Webシステムを導入すると同時に、遠隔診療を用いた病児の診察に関する研究を行います。これらのシステム導入に対する感想をお聞かせいただきたく、アンケート調査を予定しておりますので是非お力をお貸し下さい。

このように時代の変遷に伴う変革に対応できるよう、皆さんと意見を交わし前進していく所存でございます。今後も皆様の声に耳を傾け、男女、年代、職種を越えて意見交換をしながら、キャリア支援をさらに充実させてまいります。引き続き、当センターへの皆様のご支援とご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

医師・研究者キャリア支援センターの体制

組織図



スタッフ紹介

小宮根 真 弓 (センター長)
 高 橋 将 文 (副センター長)
 石 川 由紀子 (副センター長)
 藤 原 寛 行 (アドバイザー)
 小 川 真 規 (アドバイザー)
 柳 沢 佳 子 (アドバイザー)
 黒 須 洋 (アドバイザー)
 薄 井 里 英 (アドバイザー)
 笹 原 鉄 平 (アドバイザー)
 小 形 幸 代 (アドバイザー)
 上 田 真 寿 (アドバイザー)
 佐 藤 篤 子 (アドバイザー)
 武 井 暁 一 (アドバイザー)
 中 村 幸 恵 (あいりす園医)
 亀 田 美智子 (あいりす園長)
 石 井 容 子 (協力教員)
 渡 邊 賢 治 (協力教員)

医学部・教授
 医学部・准教授
 地域医療学センター・講師
 医学部・教授
 保健センター・教授
 附属病院・教授
 分子病態治療研究センター・准教授
 医学部・准教授
 医学部・准教授
 医学部・講師
 附属病院・講師
 医学部・講師
 医学部・講師
 医学部・講師
 患者サポートセンター・副センター長
 看護学部・講師
 看護学部・講師

2023 年度活動状況

就業継続・復職支援

働き方を考えるセミナー

働き方改革へ向けての職場づくり



講演 佐藤 文彦 先生／Basical Health(株) 代表

「いよいよ始まる「医師の働き方改革」を効果的に取り組んでいくために必要なポイント」

過疎に悩む地域の急性期病院で「医師の働き方改革」を成功。コーチングの手法で「**医師の働き方改革**」を実現してきた佐藤文彦先生を講師にお迎えし、その経験とノウハウについてお話いただきます。

働き方を考えるセミナー

日 時：2023 年 12 月 7 日（木）17:30～19:00

場 所：自治医科大学 地域医療情報研修センター 中講堂（Zoom ハイブリッド開催）

テ ー マ：「働き方改革へ向けての職場づくり」

講演内容：佐藤 文彦 先生／Basical Health(株) 代表取締役

「いよいよ始まる「医師の働き方改革」を

効果的に取り組んでいくために必要なポイント」

2023 年度は「働き方改革へ向けての職場づくり」をテーマに、上田 真寿先生の司会進行のもと、川合 謙介附属病院長の開会挨拶、小宮根センター長より講師のご紹介に続き、糖尿病・内



分泌代謝内科医でもある佐藤 文彦先生（Basic Health 株式会社 代表取締役）の講演が行われました。

佐藤 文彦先生は、コーチングの手法で地域病院の働き方改革を成功されており、「いよいよ始まる『医師の働き方改革』を効果的に取り組んでいくために必要なポイント」との演題でご講演いただきました。

講話では、医師の働き方改革の必要性、過疎地域の急性期病院において実践されたコーチングの具体的な内容、先生が調査された様々な医療機関でのコーチング事例、そして今後当院で実践していくためのポイントをお話いただきました。

コーチングの取り組みでは、あらゆる職種のヒアリングをおこなうこと、そこで多くのフィードバックをもらって反映すること、業務分解と棚卸しによる思い切った業務の効率化、さらには、サーバント（＝支援型）リーダーシップによる構成員それぞれの自律的な活動による病院全体の改革促進や、地域の多職種との連携の必要性についても教えていただきました。



講演後には質疑応答が行われ、最後に永井 良三学長のご挨拶により閉会いたしました。

佐藤 文彦 Fumihiko Sato

Profile

平成 10 年順天堂大学医学部卒業、平成 18 年順天堂大学大学院 内科・代謝内分泌学卒業、平成 24 年より順天堂大学 内科・代謝内分泌学講座 准教授、順天堂大学附属静岡病院 糖尿病・内分泌内科 科長 など、糖尿病の最先端分野での診療・研究を長年行っていた。平成 28 年日本 IBM 株式会社の専属産業医の後、平成 30 年より Basic Health 産業医事務所 代表、令和 4 年から Basic Health 株式会社 代表取締役となる。令和 2 年度には厚生労働省医政局委託事業「医療従事者勤務環境改善のための助言及び調査業務」検討委員会委員。日本糖尿病学会（糖尿病専門医・研修指導医）、日本医師会認定 産業医・健康スポーツ医、認定メディカルコーチ（日本コーチ協会）、産業保健法務主任者・メンタルヘルス法務主任者（日本産業保健法学会）



Jichi Joy Café

医師、研究者、学生等を対象に、キャリアの継続と家庭の両立について情報交換し、働きやすい職場作りについて考える交流会として実施しています。

2023年度は「働き方改革へ向けての職場づくり」をテーマに、オンラインで開催。また、講話のオンデマンド配信を行いました。

第17回 Jichi Joy Café の開催

日 時：2023年9月1日（金）

14:00～15:00

場 所：Zoom リモート形式

「第17回 Jichi Joy Café」は、「働き方改革へ向けての職場づくり」をテーマに、乳腺科の櫻木 雅子先生に「働き方改革って誰のため？」と題して、乳腺科の取り組みについてお話し頂きました。

世間の働き方がこれまでのメンバーシップ型雇用からジョブ型雇用へ移行していくなか、医療も同様に変化が求められているというお話は、とても分かりやすく、仕事の継続性を考えると必要なことだと感じました。

また、乳腺科が最近10年かけて働き方を見直してきており、業務のタスクシフト、日常業務の配置の工夫、地域連携の活用などの取り組みは、他の診療科の先生にも参考になる内容だったと思います。

現在、乳腺科は女性医師のみが所属しており、第二次ベビーブームに入ったとのことで、カンファレンス時間の調整やメッセージアプリでの連絡など、家庭をもつ女性が働きやすくなるように上手に調整されています。

第17回 Jichi Joy Café では、医師、研究者、薬剤部、看護部、事務など多職種の方々に加え、初めての方の参加もあり、多くの方が乳腺科の働き方に興味がありご参加頂けたのではないかと思います。

終了後アンケート

Q.講話の中で参考になったことや印象に残ったことを教えてください。

- ・乳腺科における取り組み。最後のメッセージ。
- ・乳腺科でこのような変遷があったと初めて知りました。櫻木先生は若い人が少ないことを課題とおっしゃいましたが、私は専門医取得済みの年長の先生方の層に女性が増えていることを心強く感じました。
- ・キャリアパス、育成（教育）、ライフワークバランスなど実際の女性医師のお話しが伺えて新鮮でした。勉強になりました。
- ・乳腺科の実際の取り組みをお話しいただき、大変参考になりました。女性医師だけの課題ではなく、一緒に職場をつくっていく男性医師にも参考になる事例と思いました。
- ・櫻木先生のスライドで、時代の変遷とともに対応されてきた工夫を図にまとめられていてとてもわかりやすかった
- ・櫻木先生のご講演で、ご自身のご経験を活かした医局内の調整や、子育てしている人たちの声が大きい職場であるため多方面に配慮されているというのが印象的でした。
- ・メッセージアプリを用いた業務連絡により、組織内での情報共有ができていること。
- ・タスクシフトやチームの組み方が参考になりました。乳腺科の女性の先生方が働きやすくなるように環境を整えていることがよくわかりました。働き方改革が自分のためになるように、前向きにとらえていくことは大切だと同感しました。
- ・働き方改革
- ・誰のための体制か
- ・お子さんの年齢に合わせて仕事の内容を調整するといった取り組みが参考になりました。
- ・同僚や部下との接し方、人材育成の視点

Q. フリーディスカッションで参考になったことや印象に残ったことを教えてください。

- ・子育てに苦勞されている女性医師の存在。
- ・お仕事上でしか存じ上げない先生方のいろいろな事情を垣間見ることができました。
- ・さまざまな環境でそれぞれ試行錯誤しながら取り組んでいること、さまざまな立場の人たちから意見が聞けたこと。参考になりました。
- ・仕事と家事の両立の困難に直面されている方が院内の様々な科に実際におられることに驚きました。課題も様々でお手伝いできることもいろいろあるはず、と思いました。
- ・いろいろな状況に置かれている人がそれぞれの場所で悩みながら対応されているが、皆さん「迷惑をおかけしているのですが…」と言っていたので、今後は皆がそれを「迷惑」と思わない制度が作れたらいいなと思った

- ・様々な立場の方が参加されていて、それぞれのお話が大変参考になりました。
- ・多くの方が当事者として、キャリア継続に不安をもっていることが分かった。また多くの部署で産休・育休・急な欠勤などでの対応に苦慮している現状を知り、共有することができた。
- ・たくさんの方に発言して頂きましてありがとうございました。周りの人はどのようにやりくりしているのだろうと思うことがありますが、それぞれの環境や仕事の内容が違い、いろいろな視点の意見を聞けて参考になりました。
- ・感想が多かった。
- ・私はこれから出産が控えており、その後の働き方にどのような方法があるのか勉強したくて参加しましたが、診療科によってさまざまな事情があり、いろんな先生方のご意見がとても参考になりました。
- ・各人が置かれている環境や抱えている悩みは様々であるため、まずは関係者みんなで話し合うことが重要と感じた。

Q. 櫻木先生へのメッセージがございましたらお書きください。

- ・ありがとうございました。
- ・乳腺科の先生がたはいつもきびきびとコンサルトを受けてくださるので、女性ばかりの少ないスタッフで回しておられることに驚きました。今後もしろいろお仕事上でご指導よろしくお願い申し上げます。
- ・お疲れさまでした。大変貴重なお話しをいただけて、大変勉強になりました。仕事だけでなく、家庭でもご活躍され、まさしく 24 時間、働いているんですね。これからもタスクシェアしながら、いい環境で、いい仕事ができるようにお互いに頑張りましょう！これからは何卒ご指導のほどよろしくお願いいたします。
- ・大変有用なご講話をどうもありがとうございました。
- ・いつもありがとうございます。大変参考になるお話をありがとうございました。
- ・力強く子育てもお仕事も取り組まれる先生の存在がとても励みになります。貴重なお話をありがとうございました。
- ・いつも大変お世話になっております。この度は貴重なご講演をありがとうございました。乳腺科の状況にとどまらず、先生のキャリアの重ね方も教えていただき大変勉強になりました。今後とも宜しく願いいたします。
- ・お忙しい中、ご講演頂きましてありがとうございました。今後も乳腺科の新しい取り組みがありましたら、是非、紹介して頂きたいと思います。
- ・貴重なご講演をありがとうございました
- ・望んでは分かりませんが出産をきっかけに専門分野を変更されたお話をもっと聞きたかった。

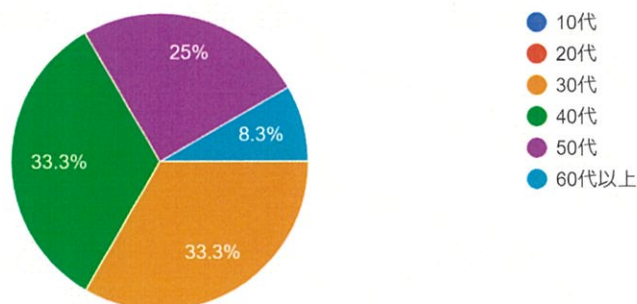
・貴重なご講演をありがとうございました。私も自分の専門性からはなるべく自治を辞めたくないで、家庭と仕事をうまく両立させられるよういろいろ工夫していきたいと思いました。またいろいろと教えてください。

・先生も試行錯誤しながら今日までやってこられたのだと感じました。これからも頑張ってください。

「第 17 回 Jichi Joy Café」アンケート結果

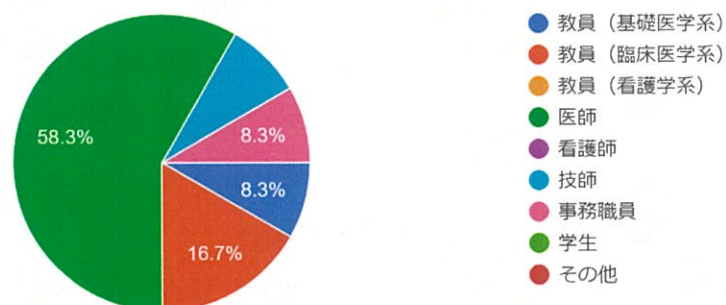
ご自身の年代を選択してください。

12 件の回答



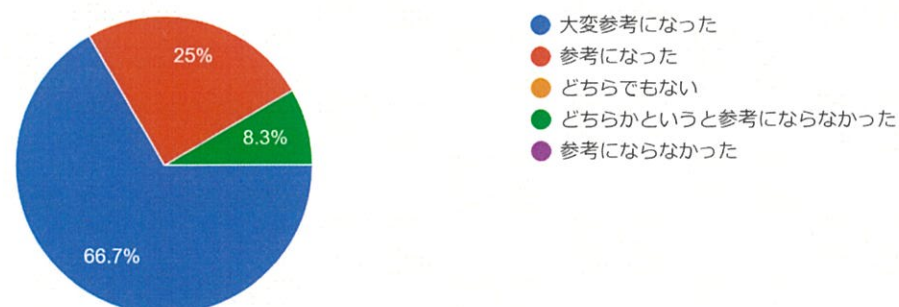
職種を教えてください。

12 件の回答



イベントの内容についてあてはまるものをご選択ください。

12 件の回答



育児短時間勤務制度

子育て中の医師(男女を問わず)に対し、就業と育児を両立させる具体的な支援制度として、勤務条件の柔軟な運用を目的に週 20 時間の短時間勤務制度を導入しています。また、自治医科大学では国が定める週 30 時間の育児短時間勤務制度を子が小学校に入学するまで(所属長が認めた場合は小学校 3 年生まで)取得できるよう拡大しています。

アドバイザーによる勤務継続のための相談、カウンセリング、コーディネート

- ・就業支援・復職支援等に関する相談件数：8 件

マタニティ白衣のレンタル

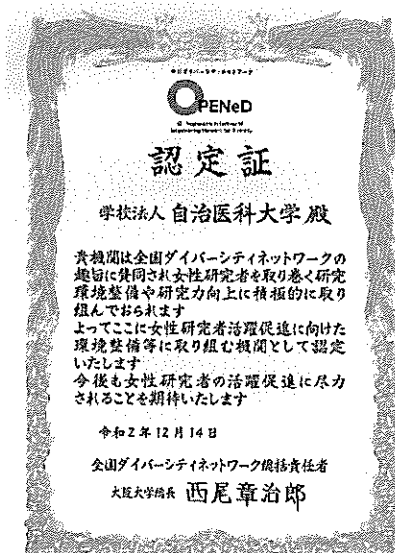
女性医師を対象に、妊娠中に使用するウエストが調節可能なコートタイプのマタニティ白衣のレンタル(無料)を行っています。

- ・2023 年度利用者：0 名

次世代育成支援

全国ダイバーシティネットワークへの参画

2020 年 12 月より、女性研究者を取り巻く研究環境整備や研究力向上に取り組む機関をつなぐ「全国ダイバーシティネットワーク」関東甲信越ブロックに参画することとしました。2023 年度は下記の会議にオンラインで参加し、ブロック間での共催セミナー開催や各大学からの現状報告を行なっています。



関東甲信越ブロック会議

- ・2023.08.03・・・今後の運営体制等について意見交換他
- ・2024.02.21・・・次年度事業計画案他

イベント参加 (Zoom ウェビナーによるオンライン開催)

- ・2023.11.28・・・第6回 全国ダイバーシティネットワーク
総括シンポジウム

また、毎月 1 回学内の教職員に向けて、ダイバーシティに関する新着情報のメール配信を行っています。

育児支援

育児支援(満3カ月～12歳)については、医師、研究者に限らず全教職員を対象とし、一時託児、病児保育、夜間保育を実施しています。保育ルームは自治医科大学2号館2階にあり、担当要員として保育サポーターをマンツーマンで付けるほか、看護師3名、保育士3名を配置しています。

保育サポート会員は、会員になるための研修を終了した方で、保育ルーム「あいりす」の利用者に対して、保育士・看護師と連携して保育のサポートを行っている有償ボランティアです。

全国的に保育士の人手不足が深刻化している中、地域の保育サポート会員の支えが大変大きな力となっています。なお、この業務は(株)日本デイケアセンターに委託しています。

保育関連の行事として、BLS(救急蘇生法)研修会、保育サポート会員交流会、懇親会を実施しています。

保育活動件数(人)

	一時託児	病児保育	夜間保育	合計
2023年度	119	413	6	538

2023年度職種別利用項目別件数及び利用ウエイト

職種区分	利用項目	件数	ウエイト	全体ウエイト
医師・研究者	一時託児	82	26.5%	57.4%
	病児保育	227	73.5%	
	夜間保育	0	0.0%	
	合計	309	100.0%	
看護師・助産師職	一時託児	29	15.6%	34.6%
	病児保育	151	81.2%	
	夜間保育	6	3.2%	
	合計	186	100.0%	
その他職員	一時託児	8	18.6%	8.0%
	病児保育	35	81.4%	
	夜間保育	0	0.0%	
	合計	43	100.0%	
合計	一時託児	119	22.1%	100.0%
	病児保育	413	76.8%	
	夜間保育	6	1.1%	
	合計	538	100.0%	

ベビーシッター派遣事業割引券の発行

 **自治医大で** 
ベビーシッター割引券が
使えるようになりました






- 内閣府の企業主導型ベビーシッター利用者支援事業を活用する補助制度です。
- 私学共済に加入する教職員であれば、非常勤、パート臨時職員の方も利用できます。
- 乳幼児から小学校3年生までの児童が対象です。
- 家庭内での保育や世話、保育施設などへの送迎にベビーシッターサービスを利用する際、1人1回4,400円まで割引が受けられます。

例えば、
土日祝日、あるいは自宅が遠い等で 保育ルームあいらす（熊本）
や院内保育所あおぞら（さいたま）が利用できない場合などに
活用いただけます。

使用にはいくつかのルールがあります。

- ・ 配偶者の就労、病気療養などによりサービスを利用しなければ勤務が困難な方が対象
- ・ 初回申込は利用予定日の7日前までに要申請など

詳しくは、医師・研究者キャリア支援センター
Web サイトをご覧ください。



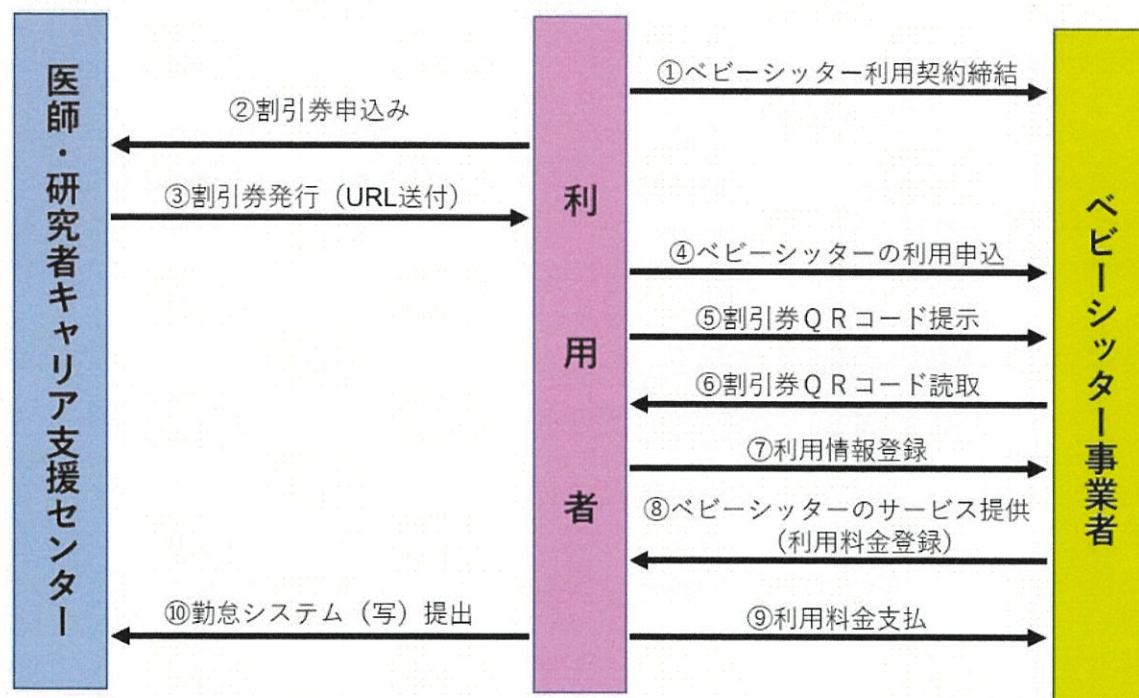
医師・研究者キャリア支援センター TEL: 0265-58-7511 (内 2448) E-mail: career_support@fch.tcu.ac.jp

2022 年度より教職員の育児と就労の両立を支援するため、『ベビーシッター派遣事業割引券』の発行を開始しました。

本制度は、内閣府の委託を受けた公益社団法人全国保育サービス協会が行っている「ベビーシッター派遣事業」を利用して実施しました。

この割引券を利用してベビーシッターサービスを利用すると、1 日の利用料金から対象児童 1 人につき最大 4,400 円（2,200 円×2 枚）の割引が受けられます。

（2023 年度使用枚数：44 枚）



地域医療従事医師支援

卒後ワークライフバランスについて考える会

(自治医科大学 地域医療推進課女性医師支援主催)

[医学部]「卒後ワークライフバランスについて考える会 2022 in Jichi」が開催されました
2023 年 6 月 17 日 (土)

令和 5 年 6 月 17 日 (土)、「地域医療とワークライフバランス～自分らしいキャリアとは～」をテーマに「卒後ワークライフバランスについて考える会 2023 in Jichi」を開催しました。平成 24 年度から開催している本会も今回で 13 回目の開催となりました。例年、医学部学生寮で開催しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、昨年に引き続き Web 会議システム Zoom を用いての開催となりました。

会の前半では、卒業生である佐藤 知香先生（宮城県 37 期）、徳野 隼人先生（東京都 41 期）のお二人よりご講演をいただきました。

佐藤先生からは学位取得や専門医取得のキャリアとご家庭との両立について、徳野先生からは離島勤務期間中のワークとライフについての内容で、参加者は熱心に耳を傾けておりました。

後半は意見交換として、Zoom のブレイクアウトルーム機能を用いて小グループに分かれ、参加している卒業生と学生でディスカッションを行いました。意見交換のテーマを「自分らしいキャリアとは」として、自分らしさとは何かについて話し合いをしてもらう機会としました。

会の開始前には、卒後指導委員会女性医師支援担当教員が、学生寮で参加学生へお弁当を配付しました。また、本会は医学部同窓会に協賛をいただいております、参加した学生全員にお菓子の差し入れをいただきました。この場をお借りして、深く御礼申し上げます。

アンケート調査の実施

少子高齢化対策の一環として、「女性活躍推進法」「産後パパ育休制度」など女性の社会活動を支援すると同時に男性の家庭での活動を支援する施策がすすめられています。このような社会要請に合う職場環境の実現に役立てられるよう、2023年度は「イクメン」アンケート調査を実施しました。

目的：国策として女性の労働力を必要としている社会状況（労働力人口の減少＝国力の低下）が背景にあることを前書きで再確認した上で、世代によって異なるであろう「イクメン志向」に対する意見を、広範に拾い上げる。

調査方法：Web調査（Google フォーム使用）

期間：令和5年12月1日（金）～令和6年1月31日（水）

質問項目：20～25問／25問 ※分岐質問形式（所要時間：約5分）

調査対象者：自治医科大学、附属病院（さいたま医療センター含む）の全教職員（医師、研究者、医療技術職員、看護職、事務職員）

WEBアンケートのお願い

Why イクメン Now !?

医師・研究者キャリア支援センターでは男性職員の家事・育児参加に関するアンケート調査を進めております。皆さまの率直なご意見・ご感想をぜひお聞かせください。

ご協力をお願いします！



☒ アンケートはこちらから

 下記URLまたはQRコードを読み込み、アンケートにお答えください。

<https://forms.gle/bXXCFBdDcjzbxQbP6>

☒ 回答受付期間

2023年12月1日(金)～2024年1月31日(水)

☒ アンケート対象

自治医科大学、附属病院の全教職員
(医師・看護師・技師・事務等、全職種が対象)

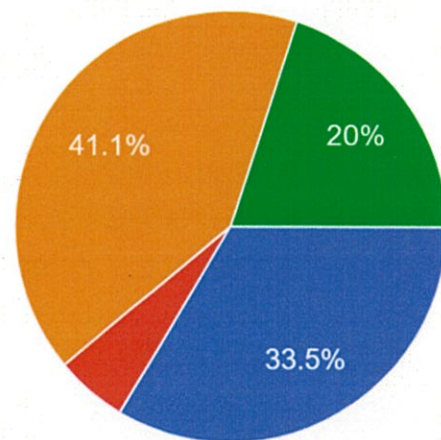
☒ イクメンとは…?

「育児（イクシ）をする男性（メンズ）」

育児に積極的に関わり、時には育児休暇をとるなど子育てを楽しむ、自分自身も成長する男性のこと。または、将来そんな人生を送ろうと考えている男性のこと。「イクメン」について、あなたはどのような思いを抱いていますか？

医師・研究者キャリア支援センター 事務局（担当：齋藤・安部）
Tel : 0285-58-7561（内線：2448） Web : <https://www.jichi.ac.jp/c-support/>

【全回答数 795 件】



- 男性・結婚しています
- 男性・結婚していません
- 女性・結婚しています
- 女性・結婚していません

印刷物

ニュースレター	Vol.37 (2023/05/18)
	Vol.38 (2023/08/09)
	Vol.39 (2023/11/22)
センターリーフレット	2023/2024 年度版
あいりすリーフレット	2023 年度版
あいりすだより	No.35 (2023 年 4 月発行)
	No.36 (2023 年 12 月発行)

発表・講演・報道

2023.9.21	石川 由紀子	栃木県医師会女性医師部会 総会・特別講演会「女性医師のキャリア推進に向けてすべきこと」講演「キャリアの現実とこれからのあるべき姿」、ワークショップ 「女性医師が一步踏み出すためには」
-----------	--------	---

統計データ

短時間勤務者(医師)

	20 時間時短勤務利用者数	育児短時間勤務者数
2023 年度	49	31

相談件数

	研修	復職	時短	保育所	育休	ハラスメント	夫婦別姓	その他	合計
2023 年度	0	2	3	0	2	0	0	1	8

保育ルームあいらす

	利用件数	利用会員数	サポート会員数
2023 年度	538	180	16

	一時託児	病児保育	夜間保育	合計
2023 年度	119	413	6	538

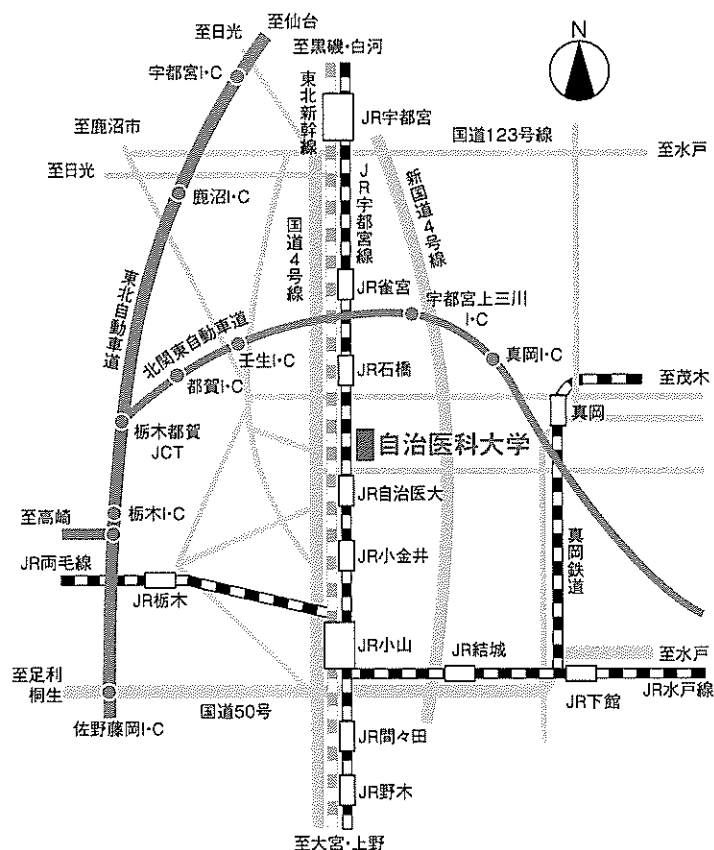
Jichi Joy Café

	参加者女性	参加者男性	参加者合計
第 17 回 (2023.9.1)	16	5	21

働き方を考えるセミナー

来場参加		オンライン参加	参加者 合計
女性	男性		
14	18	28	60

アクセスマップ



- JR 宇都宮線「自治医大駅」下車、徒歩 10 分または接続バスで 5 分。
- 東北新幹線を利用の場合は、「東京方面からは小山駅」、「東北方面からは宇都宮駅」で下車し、宇都宮線の普通電車に乗り換え。

医師・研究者キャリア支援センター 2023 年度 活動報告書

2024 年 12 月発行

発行元

自治医科大学 医師・研究者キャリア支援センター
〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1

T E L : 0285-58-7561

F A X : 0285-44-8627

E-Mail : career-support@jichi.ac.jp

Web : <https://www.jichi.ac.jp/c-support/>





Jichi Medical University
Center for Physician and Researcher
Career Support